

総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会(第26期・第1回)

1. 日 時 令和6年1月29日(月) 17:00～18:45
2. 会 場 ハイブリッド開催
オンラインサイト 東京大学 環境安全研究センター 会議室
オンライン Zoom
3. 出席委員 (敬称略) オンライン*
越塚誠一*、宮崎恵子、遠藤薰、小野恭子*、鎌田実*、神里達博*、上條正義、
柴山悦哉、庄司裕子、須田義大*、辻佳子、西田佳史*、野口和彦、平尾雅彦*、
水野毅、宮崎久美子*、持丸正明*
4. 配布資料
資料1 総合工学委員会・機械工学委員会合同分科会の設置について
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
資料2 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会委員名簿
資料3-1 第25期の活動状況の年次報告
資料3-2 第25期意思の表出および記録
資料4-1 工学システムに対する安心感等検討小委員会設置提案書
資料4-2 工学システムに対する安心感等検討小委員会委員名簿案
資料5-1 変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討小委員会
設置提案書
資料5-2 変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討小委員会
設置について
資料6-1 老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検
討小委員会設置提案書
資料6-2 老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検
討小委員会名簿案
資料7-1 安全工学シンポジウム2024 開催概要
資料7-2 安全工学シンポジウム2024 実行委員会名簿
資料7-3 安全工学シンポジウム2024 OS・PD提案
5. 議題
(1) 自己紹介
世話役の辻委員の司会で自己紹介を行った(資料2参照)。
(2) 第26期の体制
委員長の互選にあたり、前期幹事として活躍した実績があり、また、この分野
に深く関わられているため、今期分科会を取りまとめ審議を進めていくのに辻
委員が最適任との推薦意見があった。今期は原則として、会員が委員長になる

ことが求められているが、現在の委員のうち会員である2名は、他の分科会を牽引されており、委員長を務めることが予定されているため負担が重いこと、辻委員を推す委員が多く、他には推薦がなかったことから、互選により、辻委員を委員長に選出した。続いて、辻委員長により、副委員長に宮崎恵子委員、幹事に柴山委員と西田委員が指名された。

(3) 委員の追加

新規の委員として、藤井健吉様（連携会員）を追加することが承認された。また、分科会では、必要に応じて特任連携会員の推薦が可能であることが説明され、瀧谷忠弘先生（横浜国立大学）を推薦することが承認された。

(4) 分科会第26期の活動について

提案書に基づき、辻委員長から、今期の分科会の設置目的、審議事項等について説明があった。続いて、資料3-1、3-2に基づき、前期の活動および前期の見解、報告、記録計4件の概要について説明があった。

(5) 小委員会について

小委員会の設置について、以下の3件の提案があった。

- 繼続の小委員会である。資料4-1に基づき、庄司委員より、「工学システムに対する安心感等検討小委員会」の設置提案（内容および委員）の説明が行われ、承認された。
- 3期にわたり設置されてきた「安全目標の検討小委員会」および前期の「安全におけるリスクアプローチ適用検討小委員」の後継として設置する新規の小委員会である。資料5-1に基づき、野口委員より、「変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討小委員会」の設置提案（内容）の説明が行われ、承認された。委員案はメールにて確認することとなった。
- 繼続の小委員会である。資料6-1、6-2に基づき、小野委員より、「老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会」の設置提案（内容および委員）の説明が行われ、承認された。設置提案書は1ページに収まるように修正し、メールにて確認することとなった。なお、小委員会の設置が正式に確定した後、本小委員会を牽引していく方を特任連携会員として推薦することとなった。

(6) 安全工学シンポジウム2024について

辻委員長より、資料7-1に基づき、実行委員会の参加報告が行われた。

その後、安全工学シンポジウムの実行委員の選出に関する議論が行われ、辻委員長、野口委員、持丸委員、西田委員が選出された。また、本分科会関係で、以下の4件のOSとPDが提案されたことが報告された。

- OS1: カーボンニュートラル施策のリスク検討フレーム
- OS2: 安全と安心感の可視化
- OS3: 老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスクの評価と管理
- PD1: 変化する社会と技術に対応する安全とリスクを考える

(7) 委員手当について

辻委員長より、日本学術会議の方針について報告があった。分科会での運用は、委員長・副委員長・幹事で検討し、議事録作成などの貢献度で重点配分を検討することとなった。

(8) 次回予定

今年度中にもう1回開催する方向で、後日、日程調整を行うこととした。

(9) その他

- 辻委員長より、メールアドレスの共有について問題があれば1/31までに連絡いただきたい、欠席者を含めこの後メールするとの発言があった。
- 議事要旨の最終的な承認については委員長一任とすることが承認された。

以上